

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、
ご利用いただきたくご案内いたします。
弊社におきましては、皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽
を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立てのほど、
よろしくお願い申し上げます。

敬 白

記

■ 実施日 平成 27 年 8 月 3 日（月）ご依頼分より

■新規項目内容一覧

項目コード ナビラボコード (統一コード)	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値 (単位)	備 考
6531 3 039510602 4 (5C141)	Mac-2 結合蛋白 糖鎖修飾異性体 (M2BPGi)	血清 0.5	↓ A00 (X)	冷蔵	4~6日	200 ※3	CLEIA	(-) 下記参照	&□

※3：生化学検査[1]

判定基準

判定	C.O.I.
陰性 (-)	1.00 未満
陽性 (1+)	1.00~3.00 未満
陽性 (2+)	3.00 以上

●Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体

肝臓の線維化進展の診断補助に有用です。

このたび、Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体 (M2BPGi) の受託を開始いたします。

ウイルス性肝炎は、日本では約 300 万人が感染する国内最大の感染症であり、感染した状態を放置すると、肝細胞がんへ進行する可能性があるなど重篤な病態を招く疾患です。肝臓の病態把握には、線維化の程度を評価することが臨床上有用であるとされており、その検査として肝臓組織の一部を針で採取して行う肝生検が主流となっています。しがしながら、肝生検は身体的な負担も大きいいため、より簡便に肝線維化の進行度を診断ができる方法が望まれていました。

M2BP は分泌性糖タンパク質であり、その糖鎖構造が肝臓の線維化進展により顕著に変化することが報告されております。本検査は、変化した糖鎖構造に特異的なレクチンを用いることにより、血清中の M2BPGi を検出いたします。

肝線維化の進展に伴い優位に高値となり、肝生検との一致率も高いと言われると同時に、既存の肝線維化マーカーとの比較でも M2BPGi は高い診断能を有すると報告されています。

▼疾患との関連

慢性肝炎、肝硬変

▼ 関連する主な検査項目

P-Ⅲ-P、ヒアルロン酸、Ⅳ型コラーゲン 7S

▼検査要項

検査項目名	Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体 (M2BPGi)
項目コードNo. ナビラボコード	6531 3 039510602 4
検体量	血清 0.5 mL
容器	A00 (X) (ポリスピッツ)
保存方法	冷蔵
所要日数	4~6日
検査方法	CLEIA
実施料	200 点(「D215-2」肝硬度測定)
判断料	144 点(生化学検査[I]判断料)
備考	&□

●参考文献

柴田 宏,他: 臨床病理 63 (1): 72~77,2015.